

2006年度・公式規則変更内容・決定報

(全6頁)

日本アメリカンフットボール協会
競技規則委員会

アメリカンフットボール公式規則を以下のように変更します。この公式規則変更は2006年秋季公式戦より適用します。

2006年度・公式規則変更内容の全文は、下記の通りです。記載は、次の規則に従っています。

「篇 - 章 - 条」の後の(新規)、(変更)、(追加)、(削除)、(移項)、(移動)等は()内の事項が行われた事を示し、それに続く規則文は新変更文である。

下線部は、部分的な変更、追加が行われた場合にその部分を示す。削除に関しては削除された部分で囲み、削除文字上に二重線を引いてある。

【注：……】は、この変更部分に関する競技規則委員会の注意書きである。

新規の条文の発生、および削除に連動した既存の「篇 - 章 - 条」の番号の変更に関する部分は、原則として、この変更文に記載していない。

規則変更の中で主要な事項に関しては、従来の規則と変更規則を対比させ解説を加えてある。解説部分は、変更規則文の直後に記述し、その部分を枠で囲ってある。

- 1-4-5-r (削除) 鑄造され固い物質で作成された透明なもの以外のアイ・シールド。 ~~ただし、医学的理由により使用が必要な場合には、プレイヤーのチーム責任者がその申請書をチームが所属している競技団体に提出し、承認を得なければならない。~~

(1) アイ・シールドの例外規定の削除

☆従来、無色以外のアイ・シールドは不正な装具であったが、医学的理由により使用が必要な場合には、プレイヤーのチーム責任者がその申請書をチームが所属している競技団体に提出し承認を得れば、例外として使用可能であった。
★本年より、例外規定がなくなり、すべてのアイ・シールドは透明でなければならない。

- 2-2-4-b (削除) 計時が停止しているときは、レフリーがホイッスルを鳴らし、“計時開始”または“ボール・レディ・フォー・プレー”のシグナルを行った時。 ~~【例外：3-3-3-f-4-(c)および(f)】 (A.R. 4-1-4- および)~~

- 2-2-7 (追加) キャッチとは、空中にあるライブボールをプレイヤーがしっかりと確保する行為のことである。

【中略】

c. キャッチ、インターセプト、リカバーが成立するためには、キャッチ、インタ

ーセプト、あるいはリカバーするために両足がグラウンドから離れたプレーヤーの身体のどこかが最初にインバウンズに着いた時に、あるいは4 - 1 - 3 - pのデッドボールの条項が適用されるような状態になった時に、ボールをしっかりと確保していなければならない。（A . R . 2 - 2 - 7 - ~ VおよびA . R . 7 - 3 - 6 - ）

【以下、省略】

- 2-12-1-c (追加) 手渡しの試みの失敗によるプレーヤーの確保の喪失は、最後に確保をしていたプレーヤーによるファンブルである。 [例外：スナップ(参照：2 - 23 - 1 - c)]
- 2-15-4-b (追加) フリーキック・ブレスキックとは、ボールを確保しているチームのプレーヤーが、ティーまたはグラウンド上に置かれているボールを蹴るキックのことである。ボールは、味方によって保持されていてもよい。ティーを使用する場合には、ボールの最下端がグラウンドから2インチ(50mm)以上離れてはならない。ボールをグラウンド上に置き、ティーに接触した状態であってもよい。
- 3-1-1 (追加) 前半および後半は、キックオフによって開始される。レフリーは、試合開始予定時刻の3分前に、フィールド中央において各チーム最大4名のフィールド・キャプテンと他の一人の審判員の面前でコインを投げ、ピジティング・チームのフィールド・キャプテンの一人にそのコインの表裏を選択させる。後半の開始前に、フィールド・キャプテンはレフリーの下で後半の選択を行う。
【以下、省略】
- 3-1-3-g (変更と削除) チーム確保変更後の反則
1. いずれかのチームによる距離罰則は、超過節の規則により辞退となる。(例外：デッドボール中の反則およびデッドボール中の反則として施行されるライブボール中の反則 およびひとりでパーソナル・ファウル は、次のプレーで施行。)
【以下、省略】
- 3-2-1-b (追加) 前後半の間の休止時間は、すべてのプレーヤーおよびコーチがフィールドを出た後から20分とする。ただし、休止時間は試合開始前の関係者の合意により変更ができる。【注：「2006年度・公式規則変更内容・予定報」で発表した内容を変更している】
- 3-2-2-e (追加) 各チームの責任外の理由で25秒計時が中断した場合は、新たに25秒計時を開始する。消費した競技時間が明確にわかっていない場合にはスナップからゲーム・クロックの計時再開とする。
- 3-2-5 (変更) ボールがフリーキックされた時に計時を開始し、公式規則によってデッドになった時に計時を停止する。スクリメージ・ダウン中は、ボールが正当にスナップされるか、レフリーによる事前のシグナルによって計時を開始する。ゲーム・クロックは、トライの間、節の延長または超過節の間は動かしてはならない。(A . R . 3 - 2 - 5 - ~)
【以下、省略】

(2) キックオフ時の計時開始

☆従来、ボールがフリーキックされたとき、ゲーム・クロックは、ボールがフィールド・オブ・プレーにおいて正当にタッチされた時、またはBチームのエンドゾーンでBチームによって正当にタッチされてからゴールラインを横切った時、計時を開始した。

★本年より、ボールがフリーキックされたときは、キックされた時に計時開始となる。

3-3-2-b-2 (変更と追加) 不正な騒音のタイムアウトが必要な場合。(参照：9 - 2 - 1 - b - 5)

3-3-3-f-4 (削除) 【全文削除】

(3) 観客の騒音への対応

☆従来、プレーの開始に影響する観客の騒音への対応が規定されていた。

★本年より、観客の騒音への対応の規則は全て削除となった。

3-3-6 (削除) ダウン中においては1 - 4 - 4、1 - 4 - 5または9 - 2 - 2 - dに違反するとき、あるいはデッドボール中においては1 - 4 - 5 - q、1 - 4 - 6 - b、~~3 - 3 - 3 - f - 4 - (g)~~ または3 - 3 - 4 - eに違反するときは、サクシーディング・スポットにおいてチーム・タイムアウトを課す。(参照：3 - 4 - 2 - b)

3-4-2-b-2 (削除) 3回のチーム・タイムアウトを使い果たしたチームが、1 - 4 - 4、1 - 4 - 5、1 - 4 - 6 - b、~~3 - 3 - 3 - f - 4 - (g)~~、3 - 3 - 4 - eまたは9 - 2 - 2 - dの違反をした場合。

4-1-5 (削除) ボールは、レディ・フォー・プレーが宣告されてから25秒以内にプレーに移さなければならない。ただし、その間にプレー開始を中断する場合はその限りではない。中断後は、改めて最初から25秒計時が行われる。~~(例外：不正な観客の騒音の場合)~~

【以下、省略】

6-1-2-a 罰則 (変更) ライブボール中の反則。プレビアス・スポットから5ヤード、Bチームのラン後にBチームに所属するボールデッドの地点から5ヤード、またはタッチバックによりボールが置かれた地点から5ヤード。[S18]

7-1-3-b 罰則 (追加) デッドボール中の反則：サクシーディング・スポットから5ヤード。
ライブボール中の反則：プレビアス・スポットから5ヤード。
[S7、S19またはS20]
スクリメージ・キック・プレーのスナップが開始された時のライブボール中の反則：
プレビアス・スポットから5ヤード、またはプレー後のデッドボールがBチーム
に所属する地点から5ヤード。[S19、S20またはS22]

7-1-4-b 罰則 (追加) ボールがスナップされる前の反則：サクシーディング・スポットから5ヤード。

ボールのスナップ時の反則：プレビース・スポットから5ヤード。

[S 7、S 1 9またはS 2 0]

スクリメージ・キック・プレーのスナップが開始された時のライブボール中の反則：

プレビース・スポットから5ヤード、またはプレー後のデッドボールがBチームに所属する地点から5ヤード。[S 2 0]

(4) パントのスナップ時の罰則変更(追加)

☆従来、フィールドゴールの試みを除くスクリメージ・キック・プレーにおいて、スナップ開始時に発生するライブボール・ファウルに対する罰則は、プレビース・スポットから施行した。

★本年より、サクシーディング・スポットから5ヤードか、あるいは5ヤード罰退後の再プレーを選択できるようになる。フィールドゴールの試みでは、この変更は適用されない。なお、開始時に発生するライブボール・ファウルとは、不正なシフト、不正なモーション、不正なフォーメーション、交代違反を指す。

7-3-2-f 例外
(削除と変更)

1. 通常的位置のタックルの ~~身体~~ フレームからサイドライン側の外側にいる、あるいはいたことがあるパサーが、ヤードのロスをはねのけるためにニュートラル・ゾーンを越えたインバウンズ、またはニュートラル・ゾーンを越えたアウト・オブ・バウンズに落ちるボールを投げた場合、反則とはならない。(A . R . 7 - 3 - 2 -)
2. 通常的位置のタックルの ~~身体~~ フレームからサイドライン側の外側にいる、あるいはいたことがあるパサーが、ヤードのロスをはねのけるためにニュートラル・ゾーンを越えた地点のプレーヤー、審判員、またはその他のものにタッチするボールを投げた場合、反則とはならない。

(5) インテンショナル・グラウンディングの例外

☆従来、インテンショナル・グラウンディングの反則の例外として、通常的位置のタックルのフレームからサイドライン側の外側にいるパサーが、ヤードのロスをはねのけるためにニュートラル・ゾーンまたはそれを越えた地点に落ちるボールを投げた場合、反則とはならなかった。

★本年より、これまでの例外に加え、通常的位置のタックルのフレームからサイドライン側の外側に一度出たパサーが、再びその内側に戻りヤードのロスをはねのけるためにニュートラル・ゾーンまたはそれを越えた地点に落ちるボールを投げた場合も、反則とはならない。

8-3-2-a (変更) ボールは、タッチダウンの6点を得点したチームによってプレーに移される。タッチダウンとなったダウン中に第4節が終了した場合、トライの結果が試合の勝敗に影響しない場合はトライは行わない。

(6) 第4節終了時のトライの実施

☆従来、タッチダウンとなったダウン中に第4節が終了した場合、得点の少ないチームがフィールドを去ればトライは行わなかった。

★本年より、タッチダウンとなったダウン中に第4節が終了した場合、トライなしでも試合の勝敗に影響しないなら、トライを行わない。

8-3-3 (変更と削除)

トライ中のチーム確保変更前の反則

【中略】

b. トライ中のBチームの反則:

1. Aチームは、得点を辞退して罰則の施行後にトライを繰り返すか、罰則を辞退して得点を受諾するかを選択することができる。 ~~スナッパー(スクリメージ・キック・フォーメーションの場合)、ホルダー、キッカーおよびパサーに対する~~パーソナル・ファウルに対しては、Aチームは得点を受諾し、次のキックオフまたは超過節のサクシーディング・スポットで罰則を施行することができる。(A.R. 3-2-3-、A.R. 8-3-2-、A.R. 8-3-3-、およびA.R. 10-1-7-、および)

【中略】

c. トライ中のAチームの反則:

【中略】

2. トライ中のAチームの反則が、ロス・オブ・ダウンのみ、または距離罰則とロス・オブ・ダウンの両方を含む場合、得点は認められず、距離罰則は次のキックオフ ~~や次の超過節でのサクシーディング・スポット~~では科さない。

【以下、省略】

8-3-4

(変更) トライ中のチーム確保変更後の反則

- a. いずれかのチームに対する距離罰則は、規則により辞退となる。(例外: 8-3-3-d-2)(A.R. 8-3-4- および)

【以下、省略】

9-1-2-q

- (変更) 守備側のプレーヤーは、自己のチームに有利なように相手プレーヤーを踏みつけたり、飛び乗ったりしてはならない。明らかにフィールドゴールやトライをブロックしようとしてニュートラル・ゾーンの前から走ってきてニュートラル・ゾーンの前方で飛び上がった守備側のプレーヤーは、いかなるプレーヤーの上にも降りてはならない。跳び上がったプレーヤーが、ボールがスナップされた時にスクリメージ・ラインから1ヤード以内に静止していた場合は、反則とはならない。

9-2-1-b-1

- (追加) 試合中、チームエリア内のコーチ、交代選手、および許可されたチーム関係者は、正当にフィールドに出入りする以外には、レフリーの許可なしにフィールド・オブ・プレーおよび両25ヤードライン間より外側にいてはならない。(例外: 1-2-4-gおよび3-3-8-c) チームエリアの外に出てライブボールのプレーに参加したり影響を与えたチーム関係者は、9-1-4-aの罰則の対象となる。

10-2-2-b

- (追加) スナップまたはフリーキック: スナップまたはフリーキックと同時に発生した反則に対する罰則の施行地点は、プレビウス・スポットである。(参照: 6-1-2-

a、7-1-3-bおよび7-1-4-b) (A.R.10-2-2-)

10-2-2-e-例外6 (新規) スクリメージ・キック・プレーのスナップが開始された時のライブボール中の反則：プレビース・スポットから5ヤード、またはプレー後のデッドボールがBチームに所属する地点から5ヤード。(参照：7-1-3-bおよび7-1-4-b)

2008年度・公式規則変更予定主要項目の解説

2008年度の公式規則変更として予定している主要な項目は、つぎのとおりです。

(1) フィールドゴール時のティー使用禁止

現在フィールドゴールの試みにおいてティーを使用できるが、2008年秋季公式戦から禁止される。

(2) キッキング・ティーの規格変更

現在キックオフで使用するティーの高さは、「ボールの最下端からグラウンドまでが最大2インチ(約50mm)」であるが、2008年秋季公式戦から、「ボールの最下端からグラウンドまでが最大1インチ(約25mm)」となる。

以 上